

尼崎市立地域研究史料館の下張り文書 はがし作業について

城戸 八千代

（きどやちよ
地域研究史料館嘱託職員）

地域研究史料館はこの間、年二回のペースで、ボランティアを募って下張り文書はがし作業を行なっています。平成二四年度に開始し、平成二六年（二〇一四）六月までに計四回のボランティア作業を行ないました。

下張り文書を活用していくうえで、はがし作業が必要であることは以前から課題となっており、まず最初に館員による試行作業を行いました。平成二四年六月、当時近大姫路大学助教であった現館員の河野未史（このみお）を講師役として、スタッフが作業を行なった結果、十分な準備をすれば初心者でも作業可能という結論を得ることができました。

これを受けて、同年九月二八日（金）と二九日（土）の二日間、ボランティア九人による下張り文書はがしボランティア作業を実施しました。河野に加えて近大姫路大学講師の松下正和氏にも作業指導をお願いしました。

第二回は平成二五年五月一八日（土）から二〇日（月）の三日間で作業を行ない、二〇人のボランティア参加がありました。この回から、史料修復の専門技術者である尾立和則氏も、講師陣に加わってくださいました。

第三回は、平成二五年一月二日（木）と三日（金）の二日間実施しました。この回から、大きな変更が二点ありました。ひとつは会場の変更です。第一・二回の会場とした史料館分室はアクセスが悪く、またお手洗いがなかったため作業時間を午後半日にとどめざるを得ませんでした。この回から市の中央地域振興センター・コミュニティホールを会場として使用することが可能となりました。そこで一日開催とし、半日単位で参加を募った結果、参加人数は延二二人となりました。もうひとつは、はがし作業を行なう文書群の変更です。第一・二回に刺がしたのは「橋本治左衛門氏文書（四）」という、襖から下張りだけがはがされた「まくり」という状態の文書群でした。紙の状態が悪く、洋紙（酸性紙）も多いことから、講師からボランティア作業には向かないとの指摘があり「琴秋閣下張り」に変更しました。この文書群もまくりの状態ですが、全体が和紙で状態が良いものです。

第四回は、平成二六年五月三〇日（金）と三一日（土）に実施し、延三八人の方にご参加いただきました。このうち一五人が、前回までの作業経験者でした。会場ではより多くの方に作業を見ていただき、下張り文書のことを知ってもらおうとミニ展示を行ない、見学者も受け入れました。

参加されたボランティアのみなさんにアンケートをとったところ、初体験で作業がむずかしいという回答が少なくなかったのですが、多くの方にまた参加したいと言っていた。ただし、ホッと胸をなで下ろしました。また、アンケートの感想から、みなさんが緊張感を持ち、集中して作業にあたってくださったことがよくわかりました。

内容についてはまだ整理・調査中ですが、今まではがしたのとは明治期の文書とみられます。ボランティアの方は、古文書を読めない方がほとんどです。はがした文書の内容を知りたいという意見も多く寄せられており、次回作業時には少しでも報告出来るようにしたいと考えています。

このボランティア作業は、下張り文書の整理が目的です。それと同時に、くずし字を読めない方にも古文書に触れていただき、歴史や地域に、より深く関心を持っていたくきつかけになればと願っています。

平成二六年一〇月三一日発行

地域史研究 第一一四号

— 尼崎市立地域研究史料館紀要 —

（年一号発行）

660-0881 尼崎市昭和通二丁目七一六

尼崎市総合文化センター七階

電話（〇六）六四八二五二四六

FAX（〇六）六四八二五二四四

e-mail: ama-chiki-shiryokan@

city.amagasaki.hyogo.jp

編集
印刷

尼崎市立地域研究史料館
株式会社プリンティング園田